

第 48 回 日本糖尿病学会 年次学術集会に参加して

2005 年 5 月 12 ～ 14 日 (神戸市)

田丸 正明

神戸大学春日雅人会長のもと第 48 回日本糖尿病学会年次学術集会が 5 月 12 日～14 日に神戸市で開催されました。

「生命科学が切り拓く糖尿病学の新たなステージ」をメインテーマとして会長講演，特別講演の他に特別シンポジウム 1，シンポジウム 16，教育講演 12，一般演題約 1,500，ランチョンセミナー 40・イブニングセミナー 9 と盛りだくさんの内容でした。

シンポジウム 1「糖尿病診療における臨床心理の役割と実際—臨床と知の場」は文化庁長官河合隼雄先生，石井均先生(天理よろづ相談所病院 内分泌内科)を座長としてケーススタディと講演が行われました。挙児希望の 1 型糖尿病の患者の話が呈示され，皆藤章先生(京都大学大学院 教育学研究科)，原千晴先生(北海道大学病院 看護師)も加わったディスカッションでぐんぐん深められてゆく感動の 135 分間でした。河合先生のお話で「いつも患者さんの話を聞いているせいか私にはうち明け話をしやすいらしくタクシーの運転手さんが身の上話に熱中して道を間違えられたこともあるんです」には場内爆笑でした。

心理・行動変容に関しては療養指導などの一般演題でも活発に討議され，さらにランチョンセミナーでも，「食コーチング」による栄養相談，糖尿病患者への心理的サポートの発展と深化，Enhancing Patient Self-Management など重点的に取り上げられていました。

メタボリック症候群にも関連してアディポサイトカイン，脂肪細胞を含め研究・臨床さらには疫学的アプローチからとさまざまな成果が発表されました。

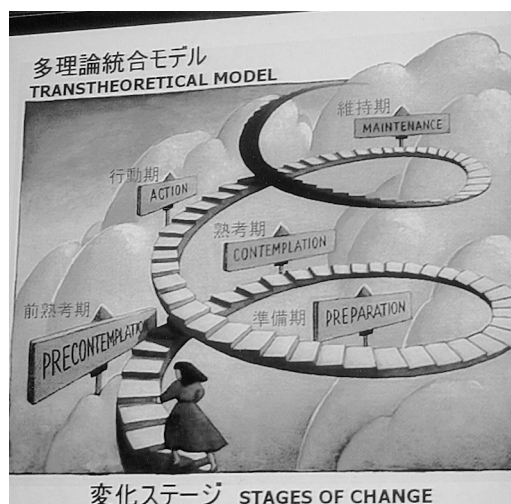
治療面では新しいインスリンの使用法，各種経口糖尿病薬の基礎的，臨床的な研究が発表され現在の診療をベースに熱い議論が繰り広げられ興

Box 1 シンポジウムより



「糖尿病診療における臨床心理の役割と実際—臨床と知の場」の河合隼雄先生と石井均先生

Box 2 ランチョンセミナーより



「Enhancing Patient Self-Management」の 2 席目「Introduction to the Trans-Theoretical Model of Change & Its Application to Patients」(Laurie Ruggiero 先生のスライドより)

奮させられました。

新しい，重要な考え方，知識を吸収させていただき，さらに未来の夢をいただいた豊かな 3 日間でした。M

たまる まさあき

社会福祉法人恩賜財団済生会今治第二病院 副院長
(〒794-0054 愛媛県今治市北日吉町 1 丁目 7 番 43 号)